

中国高齢化関連訪日団の来訪

2014年3月6日、秦洪明・中国科学技術部中国科技交流センター日本処長を団長とする11名の訪日団が研究所を来訪した。これは日本を含む先進諸国に比べ、経済発展と社会保障制度の整備が不十分な段階で高齢化が進む「未富先老」状況に危機感を抱いた中国政府が、日本の状況と対応を視察し参考とするため、中央および地方の高齢者福祉担当者を派遣したものである。王振耀・北京師範大学中国公益研究院長による中国の状況説明に続いて、本研究所からは筆者が日本を含む東アジアの人口高齢化の状況を、小島克久・国際関係部室長が介護保険を中心として日本の社会保障制度について説明した。説明と質疑応答は、中国語・日本語間の逐次通訳を通じて行われた。（鈴木 透 記）

2013年度第2回日本人口学会東日本地域部会

2013年度第2回日本人口学会東日本地域部会は2014年3月14日（金）に帝京大学霞ヶ関キャンパスで行われた。20名を超える参加者があり、活発な議論がなされた。以下のように、既存統計から得られないデータを推計、推定する試みの研究発表がなされた。

「高齢者居住安定確保計画策定マニュアルに関する一考察

—孤立的高齢単身者の将来推計— ……………丸山洋平（慶應義塾大学）

「小地域人口統計の推定に関する新しい手法

—人口ポテンシャル概念を用いて— ……………井上 孝（青山学院大学）

「配偶関係別純移動率の推計と国勢調査結果との比較：札幌市2005年-2010年」

……………原 俊彦（札幌市立大学）

「初婚関数の動態化について」 ……………池周一郎（帝京大学）

（貴志匡博 記）

中国社会科学院社会学研究所合同ワークショップ

2014年4月3日、中国社会科学院社会学研究所の研究員・職員を招いて、合同ワークショップが開催された。来所したのは、同研究所の呉小英博士・陳午晴博士・馬春華博士・石金群博士および殷維氏の5名で、お茶の水女子大学の劉楠博士と康穎氏が通訳として同行した。ワークショップは原則として英語で進められたが、難解な部分は中国語・日本語の逐次通訳、さらにはホワイトボードへの漢字筆記まで駆使して意思疎通がはかられた。

まず林玲子・国際関係部長と呉小英博士がそれぞれの研究所について紹介した後、あらかじめ提出されていた質問に答える形で、それぞれの国の家族変動・家族政策に関する報告がなされた。本研究所からは、勝又幸子・情報調査分析部長、小島克久・国際関係部室長および筆者が、日本の家族意識、女子労働力、離婚率、家族政策、福祉政策、社会保障制度等について報告した。社会科学院からは、馬春華博士が中国の家族政策、出生率、一人っ子政策、ジェンダー平等、年金制度等について報告した。双方から活発な質疑応答が行われ、充実したワークショップとなった。（鈴木 透 記）